

前奏	黙想	祈禱	
讃美歌	52 主のさかえに	讃美歌	501 いのちのみことば
祈禱		献金	
信仰告白	使徒信条 566	讃詠	547 いまささぐるそなえものを
聖書	イザヤ書 55:1~3	黙禱	
	ヨハネによる福音書 6:32~35	主の祈り	564
讃美歌	287 イエスキみのみなは	讃詠	545 父のみかみに
説教	『命のパンを分かち合う』	祝禱	後奏

「渴きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。銀を持たない者も来るがよい。穀物を求めて食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め、値を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ(イザヤ 55:1)」。水と穀物は生存に不可欠なもの。おカネがなくなつてぶどう酒や乳も暮らしに欠かせない。貧しい者には「落穂拾い」が保障され(レビ 19:9~10)、現代のセーフティーネットは生活保護か。耳を澄まし、神の招きの声を聞きたい。「銀を払うことなく穀物を求め、値を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ」。

だが人は「糧にならぬもの、飢えを満たさぬもの」のために労苦する(イザヤ 55:2)。なぜだろうか。日毎の糧だけでは心が満たされないからだ。あの空虚感は何ぞ生ずるのか。「わたしに聞き従えば、良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむ(54:2)」はずではないか。人間の空虚を払拭する豊かな「良いもの」とは何であろうか。そのためにどうやって聞き従えばいいのか。

救いの意味が分らぬまま夢中で追い迫る群衆に(ヨハネ 6:24~6)、イエスは語る。「神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである(6:33)」。すると群衆は、パンを求めてか、神の命を求めてか、それらが分らぬままなのか、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください(6:34)」と答える。イエスは厳かに告げる。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない(6:35)」。預言者が語った神の言葉(イザヤ 55:1)と響き合う。

では実際のところ、「命のパン」であるイエスの何が、「決して飢えず決して渴かない(ヨハネ 6:35)」恵みになるのか。直前に起こった五千人もの大群衆が満腹した奇跡を思い起こしてみよう。奇跡を讃えるのもいいが、群衆満腹の根拠を合理的に解しても奇跡が色褪せることはあるまい。この場をじっと見つめてみよう。イエスの近くにあった食物は、少年が抱えていた五つのパンと二匹の魚だけ(6:9)。

イエスは少年のパンと魚を「感謝の祈りを唱えて」周りにいた者たちと分かち合う(6:11)。するとどうだろう。周囲の人たちも次々に、自分のパンを袋から出して分かち合い始めたではないか。それで人々は満腹し「残ったパン屑で、十二の籠がいっぱいになった(6:12)」。イエスの淡々とした分かち合いが、人々の間にザワザワと連鎖していく。これこそ「命のパン(6:35)」の奇跡ではないのか。

ただの満腹感ではない。幾度も回って来るパンの欠片で、腹だけでなく心も満たされた。分かち合うものは麦のパンであると同時に、キリストの身体が裂かれた「命」のパンなのだ。預言者が語ったように「わたしに聞き従えば、良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂に命を得よ(イザヤ 55:2~3)」。

命のパンが心まで満たし、預言書にあるごとく心の奥の魂をも喜ばせる。ただ、それだけではない。命のパンとして「わたしをお遣わしになった方の御心とは~与えてくださった人を一人も失わないで、終りの日に復活させることである(ヨハネ 6:39)」。分かち与えられる命のパンで、私たちは一人も滅びず、やがて復活する。御自分を分かち与える恵みは連鎖し、教会の聖礼典がその意味を伝えている。「大勢の人には役に立たない(6:9)」と放り出さず、やってみることだ。ただのパンが、命のパンになるから。

命のパンには限りがない 周囲のパンまで命を帯びて来るから 分かつほどに大きく膨らんでいく
教会の愛餐 豪勢な時も 慎ましい時も 感謝が溢れる パンを裂き分けるキリストのおもかげが

7/12(水) 12:00~2:00 エステル会(集会所)。7/15(土) 1:30~3:30 八ヶ岳メディカル・カフェ開催。
牧師の動き: 7/10~11 教団教誨師会研修(大阪)。7/12 聖書のおはなし(YMCA)、キリスト者9条の会。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。